

令和２年度第１回乳幼児教育保育推進体制の充実・活用強化に関する懇談会 議事要旨

1 開催日時

令和２年８月１９日（水） 午後３時００分～午後４時３０分

2 開催場所

広島市役所北庁舎６階 教育委員室

3 出席者等

(1) 学識経験者・教育関係者・関係団体代表者

朝倉 淳	【座長】	(安田女子大学 教育学部 児童教育学科 教授)
徳永 隆治		(安田女子大学 教育学部 児童教育学科 教授)
渡邊 英則		(認定こども園 ゆうゆうのもり幼保園 園長)
松尾 竜		(広島市私立保育園協会 理事長)
米川 晃		(広島市私立幼稚園協会 理事長)
河面 睦子		(広島市保育園長会 代表)
坂本 玲子		(広島市立幼稚園長会 会長)
安田 仁		(広島市小学校長会 代表)

(2) 事務局（広島市こども未来局・広島市教育委員会事務局）

保育企画課長、保育企画課調整担当課長、保育指導課保育園運営指導担当課長、
総務部長、教育企画課長、指導第一課長、特別支援教育課長、教育センター次長

4 議題（公開）

- (1) 令和２年度 乳幼児教育保育推進体制の充実・活用強化事業に関する懇談会について
- (2) 乳幼児教育保育アドバイザーの効果的な活用について

5 傍聴人の人数

０名

6 懇談会資料名

- ・ 令和２年度 乳幼児教育保育推進体制の充実・活用強化に関する懇談会について（資料１）
- ・ 乳幼児教育保育アドバイザーの効果的な活用について（資料２）

7 出席者の発言要旨

- ・ 令和２年度 乳幼児教育保育推進体制の充実・活用強化に関する懇談会について

事務局の説明に対し、以下のような意見・質問等があった。

※１ ○は学識経験者・教育関係者・関係団体代表者、●は事務局職員の発言を表す。

※２ 「乳幼児教育保育アドバイザー」は「アドバイザー」と、「乳幼児教育保育支援センター」は「センター」と表記している。

● 資料１の説明

（特に意見等無し）

● 資料２の説明

- 「今後どのようなテーマでアドバイザーを活用したいか」については、平成31年2月の回答だが、今改めて調査すると、また違う結果となることが予想されると思う。
- 今年度アドバイザーを派遣した園からの報告書には、「外国籍の子どもに対する支援の仕方」、「食育」、「離乳食の進め方」をテーマとした支援の要望が出ている。
- 今年5月までは、新型コロナウイルス感染症の関係でアドバイザーの派遣等はなかったということだが、その後派遣を再開してから、新型コロナウイルス感染症関連での派遣などはあったのか。
- 今年度から委嘱している衛生管理を専門としたアドバイザーを派遣した際には、感染症対策などに触れることで、効果的な支援につながっていると思っている。
- 今まさにコロナ禍であるが、今後もアドバイザーを現場へ派遣するという形で考えているのか。あるいは、オンラインでの支援なども考えているのか。
- 現在、明確な方針は出ていないが、園等の現場からは、実際に子どもの姿を見取りながらアドバイスしてほしいと言われる園が多い。そのような場合は、対面による支援が必要だと思っている。しかし、研修や講演等についてはオンラインでも可能な場合もあると思うので、今後、検討していきたい。
- 特別支援教育に関するアドバイザーの支援については、非常に肯定的で成果が出ていると思う。このことから考えられることとして、個々の園の要望に応じた研修をするということと同時に、今後は、「特別支援教育等について」等のように、一定のテーマをもって全園を対象とした研修について計画してもよいのではないかな。
- そのような取組は、次のステップだと思っている。現在のアドバイザーの派遣による支援は、アドバイザーの個々の資質に依存するところが大きい上に、個々の子どもの状況に応じた支援を行っており、そのようなデータをセンターで集めて、より汎用性のある支援方法を探っているところである。

次のステップとして、先ほどの御意見について検討していきたい。
- センターの全体の取組とアドバイザー派遣がどうリンクするのか。コロナ禍で展望が難しいと思うが、その辺りの考えはどうか。
- 今年度のセンターの取組全般としては、一つはアドバイザーを活用した園等への支援、もう一つは、幼稚園教諭・保育士等の人材育成を考えている。人材育成については、この懇談会とは別に、「人材育成のための意見交換会」を設けて、構成員の方から御意見をいただきながら、保育者としての目指すべき姿、それぞれのキャリアに応じて求められる資質・

能力等を整理しながら、各団体や行政等で行っている研修の整理ができないかということについて検討している。

アドバイザーの活用については、園等の支援をどのように行っていくか、中でも幼保小接続等について考えていきたい。

- 今は、コロナ禍にあって子どもたちがどうだったかということを中心に議論しなくてはならないと思う。

今年は、幼稚園、保育園、小学校では、社会性・協同性といった人と関わる力が例年と同じようには育たないのではないか。園では安全を第一に消毒ばかりやっている印象で、安全面の配慮が過剰になり過ぎている可能性が高い。

また、親子関係については難しくなった点と良かった点があり、保護者の中には、こんなに長く子どもと一緒にいたことがなかった人もいる。今までになかった生活の仕方を子どもたちが経験している状況である。

アドバイザーに、子どもの心理、子どもの安全、子どもの虐待防止等の専門家がいるのであれば、今年の保育園や幼稚園での状況はどうなのか、必要な経験や園外に出かけることがほとんどできていない1学期を過ごして、2学期以降で幼児教育が大事にしている「社会性」は育てられるのか、年長児を小学校へこのまま送り出せるのか、などを専門的な見地から話し合ってみるとよいのではないか。

この懇談会においても、行政、養成校、関係団体、園長等が集まっているのだから、こうした状況や、大事にしなくてはならない子どもの社会性の育成と安全面の両立について議論しながら、メッセージを出さないといけないのではないか。

現場は国などからの通達等を踏まえながらいろいろとやっている。認定こども園では、文部科学省からも厚生労働省からも情報が入るが内容が異なっていることもあり、迷う場合もある。そのような混乱が起きている時に、この状況を整理して、広島市としてはどう考えるのか、という一歩踏み出すような動きが必要なのではないか。幼児教育では、何が大切なのか、何を育てるべきなのか、今こそ「預かる施設」ではなく、「子どもを育てる施設」が必要であるという意味で、乳幼児期はどういう時期でどんなことが大切なのかなどについて考えるべきである。

今年度の懇談会のテーマであるアドバイザーの効果的な活用、幼保小の接続、家庭の教育力向上についても、何が必要とされているか、コロナ禍でどう保育すればよいか、どう小学校へ送り出せばよいか等、少しでもよいので見解を出した方がよい。現場はそれを求めているのではないか。

現場では、「自分の園ではこうしているが他の園ではどうしているのか」ということが気になっている。保護者の理解を得ながら、子どもたちがのびのび遊べるようにするにはどうするか、子どもたちへの禁止事項が多くなる現状の中で、育ちをどう保障するかを検討することが必要なのではないか。園等の現場で、本当に子どもたちが育つというのはどういうことかを考えるための、教育委員会やこども未来局の役割が問われている。

障害のある子どもたちも、自宅で長時間過ごす中で相当なストレスを感じており、課題となっている。こうした中で保育者として何ができるか、子どもの姿や現状に合わせて保育をどう組み立てていくのか、その資質・能力を育てていくことが保育の質の向上につな

がる。保育者は、今の自分に何ができるかを考え、情報交換しながら好事例を取り入れたりすることが必要である。コロナ禍にある子どもたちは、必要な経験ができていない。子どもが育つ上でこのままでいいのか、命を守ることをどうするか、子どもの側に立ったメッセージを意見として出し合えたらよいのではないかと思う。自分自身も悩んでいるところである。

- コロナ対応で、現場は試行錯誤しつつ混乱している。4、5月に幼稚園に登園できず大切な2か月が空白となったことで、この間の育ちを、どう取り戻すのか、どう回復させるのか、どう積み重ねるのか、これまでと大きく変えるのか、議論しなくてはならないと思う。同時に、昨年10月からの幼児教育・保育の無償化の影響は大きく、保護者は「どんな保育を受けさせたいか」というよりも、「どんなサービスを受けられるのか」という考えにシフトし、保育内容が置き去りにされていると感じている。

この事業(幼児教育・保育の無償化)は、どの子どもにも質の高い教育・保育を受けさせることが趣旨だったが、それが前面に出ておらず、子どもが置き去りにされているような気がしている。自分自身も、アドバイザーと一緒にいろいろなことを考えたり、学んだりしたいと思っているが、それと同時に、広島の子どものをどういう風に育てたいかという共通のベクトルがあればよいと思う。広島県は「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プランを示しており、広島市も広島県だからある程度共通の部分はあると思うが、平和教育を含め、広島の子どものとしてどう育てていきたいかというベクトルを合わせておくとういのではないかと考えている。

- コロナ感染症の拡大に伴い、この半年間にいろいろなことが起こり、昨年度から始まった無償化のことも影響して、幼児教育・保育が目指しているところが実現しているとはいえない状況であると思う。

- 小学校でも、学習指導要領の改訂に伴い、「学び合う子どもたち」、「主体的な学びとは」等について校内で研修を進めていたところで、コロナ感染症拡大の波が来た。そのため、子ども同士のグループでの話し合いは密になるからできないとか、授業数はカットされるのに内容は進めなければならない、などの状況の中で年度末を迎えた。

新年度も休校などにより困難な状況であった。学校が再開してみると、コロナ対応を重視すると子どもたちの目が輝かないということを、本校の先生たちも皆感じていた。そのため、コロナ禍の中でも、工夫しながら近くの友達と相談させるなど、先生達が人と関わることの大切さを理解した上で取り組んでいる。人との関わりをどう持つかが大切であり、人と関わることで育ってきていると感じている。

広島市のアドバイザーの支援は、園に寄り添った支援とすることで先生たちが育ち、子どもたちが育つというものであり、とても温かいと感じた。人との関わりをどう持つかが大切であり、管理職としては、子ども同士が密接しないように注意しなくてはならない場面もあるかもしれないが、やはり子どもたちは人と関わりたいと思っているので、関わらせることは進めていきたい。

今一番課題として感じているのは、発達課題のある子どもたちが非常に苦しんでいるこ

とである。授業のスピードが速くなり、人との関わりの時間が少ない中で不登校傾向になる子どももいる。そういう子どもたちをどう救っていくかについても、考えていきたいと思っている。

- 小学校では、テキストを宿題にするなど、学習を進めるために子どもにやらせることがたくさんあるようである。しかし、少なくとも1年生には、教科書だけで学ばせることはやめてほしい。今年は、幼稚園や保育園を卒園して、すぐに学校に行けなかったことで「学校に行きたくて仕方ない」、「学びたくて仕方ない」と思っていた新1年生が、テキストだけの学習では、学校に行ってみると「こんなにつまらないのか」と感じてしまう。1年生には、「学校って面白い」、「学ぶことは楽しい」、「人と関わることは面白い」ということを是非伝えてほしい。

来年度の新1年生は、年中児（4歳児）とあまり変わらない感じかもしれないと思っている。大きな行事を経験できないことで、話し合ったり友達との関係を作ったりという経験ができていない。その影響を受けて1年生になった時に、これまでの1年生と違うかもしれないと思っている。子どもたちがどう感じているのか、何が大切なのか、人と関わるのが未熟な子どもたちがどうやってそのことを克服していくか、時間がかかるがその時間をどうやって保証するか、というようなことについて意見交換ができると、幼保小連携が実のある形になる。現場としてはそれぞれの子どもの姿を通して話すことが大切だが、大枠としてそれが大切だということを示してもらえると、子どもたちの居場所や関わり方が違ってくるのではないと思う。

- 幼稚園では、預かり保育を利用したケースと、登園を自粛したケースに分かれている。預かり保育を利用した子どもは、集団生活の経験を通してある程度伸びていると感じる。一方、登園を自粛した子どもは、自粛期間に集団生活を経験していないため、6月から園を再開した際に、登園していた子どもとの6週間の差は歴然としていると感じた。

2か月の経験差のある子どもたちが一緒に6月を過ごしていく中で、学びの差をどう埋めていくのが難しかった。いろいろな配慮をしながら、7月中旬頃からようやく揃ってきたが、経験の差を全て埋めることはできない。8月からの保育をどう考えるか、9月からの行事をコロナ禍の中でどう対応していくか、小学校へ送り出すまでに園側として「ここまでは育てたい」という思いがあるが、限られた時間の中で子どもの育ちを省くことなくどう取り組んでいくか、職員と話をしながら、学年ごとのできなかったところを整理しているところである。

そういうところでアドバイザーに、的確なアドバイスをしてほしいが、アドバイザーも初めてのことで、難しいと思う。園としては、第三者の意見を聞きながら、どう考えたらいいかを相談することができるアドバイザーは、ありがたいと感じる。

- 公立保育園では、コロナ禍で研修に出られない中、園を訪問してもらい、クラス単位で個々に応じた視点により即座にアドバイスを受けられており、ありがたい。

小学校との連携についても、小学校との話し合いがなかなかできていないことが気になっている。

担任が「行事ができない中でどうするか」、「子どもにとって本当に必要なものは何か」を考えるようになり、職員が育ってきている部分もある。現場としては、職員にも子どもにも何が育ってきているかを整理しておく必要があるのではないかと感じた。

アドバイザーの実践事例集は、アドバイザーの活用の仕方が参考になるので、現場にも情報提供していただけるとよいと思う。

- 実践事例集については、ホームページへの公開も検討したい。

また、今後は、コロナ禍にあってどうだったかという視点も踏まえて、資料を整理していきたい。

- 4月の新聞に、子どもたちがマスクをしたり、給食を背中合わせや衝立越しに食べたりして、ソーシャルディスタンスを保つ事例がよいことであるというような形で載っていた。子どもを感染から守る、命を守ることは大切なことだが、子どもたちは群れるものであり、集団生活の中でもまれて育っている。「保育は3密である」ということを是非理解してほしい。このような状況の中、保育現場では、ねらいを保ちつつ、行事等の形を変えて工夫しながら行っている。是非そのことを知っていただき、広めていただきたいと思う。

- 現場の困っていることに対する支援も必要だが、「これをやるとよかった」という好事例集を丁寧に作ってもらいたいのではないか。

横浜では、ズームやユーチューブ等で動画配信を行っている。ユーチューブの限定配信で自園の保護者だけが見ることができるようにする方法もある。保護者の要望で昨年度の卒園式の動画を配信したり、4月からは先生や保育室の紹介、季節の歌などを配信することで、家庭で保護者が子どもに動画を見せているし、誕生会や懇談会もズームで行っている。対面ではできない場合の職員会議、研修会、保護者会などのあり様を検討していく必要がある。ICTに詳しい方にアドバイスしてもらいながら、行っていく方法もある。

今後どうなるか分からないが、今年の好事例を集めて発信することで、コロナ禍の保育・教育はどうあるべきか、先生たちが一生懸命やっていることの中から、本当に大切なことは何かが分かるのではないかと。現場の先生が今知りたいのは「他の園ではどうしているのか」、「どんな工夫の仕方があるのか」ということだと思う。

園ではどうしても子どもたちは3密になる。保護者には、必ず検温してもらい、咳、鼻水などの感染症が疑われる症状が出たら必ず欠席させるように協力してもらっている。園としては、子どもたちの園での生活をできるだけ規制しないで過ごすことができるための方法を考えて行っている。

それぞれの園の状況もあるが、好事例を集め、アドバイザーも含めて共有することで、園がアドバイザーに気軽に尋ねることができるようになるので、情報が行き交う仕掛けを作っていただきたい。実習、園児募集、保育者の確保等、今後いろいろな課題がある。

- 実習生は、実習が始まる前の2週間は自宅待機させ、その間体温測定を毎日行い、その記録を持って実習する園へ行かせている。細かな対応は市・県によって違っているが、きちんと対応しながら、お願いしているところである。

3密の話が出ていたが、そのうちの2つ、「密接」と「密集」については、子どもの保育や小学校の授業、大学でも実技系の授業では絶対に避けられないことである。今年できなかったことの影響が出てくると思うが、今後どうすればよいか課題である。

勤務先では、4月から5月までオンライン授業を行い、6月からは対面授業を行っている。オンライン授業は、教師も疲弊してしまう。相手の反応が見えないままに教育・保育はあり得ない。これからの教育にICTを活用していくことも大事だが、ICT中心では、教育・保育はできないということを実感した。

○ 緊急避難的な意味、効果的な活用という意味でも、ICTの活用は一つの手段であり、手法である。今の時代、それに対応していくことは大事なことだと思う。しかし、オンラインで全てできるよう言い方に関しては、「密」でないと教育はできないということを伝えていかなければいけないと感じている。

○ 小学校で今後オンラインの授業が増えていくことが予想されるのであれば、ますます幼児期の実体験、直接体験、密な関わりということがとても大事になってくるし、そうしたことがあった上でのオンライン授業だと思う。保育園・幼稚園で密にならずに過ごそうとすることや、オンラインで保育をしようという方向に行くのではなく、大事なところをしっかりと経験させたいと感じた。

今年度の事業で、「小さな保育園応援プログラム」の紹介があった。これは特色があり、とてもよいと思う。無認可の小さな保育園の園長先生が「いろいろなことを学びたいがどうしたらよいかわからない。」と言われていた。小さな園の先生も一生懸命取り組んでいる中、コロナ禍で更にどうしたらよいか困っており、そこにもしっかりと目を向けて支援しようとしているこの取組は是非周知していただきたい。

積極的にアドバイザー派遣を依頼する園もあるが、なかなかきっかけがつかめない園もある。そのような園に対しては、ドキュメンテーションやICT、コロナ対応等、具体的な支援を紹介してもらおうと、きっかけができて依頼しやすくなるのではないかと思った。

○ 「どういう子どもに育てたいのか」を考えるにあたり、広島市には教育大綱があると思う。次回の懇談会では、教育大綱の資料を添付していただきたい。